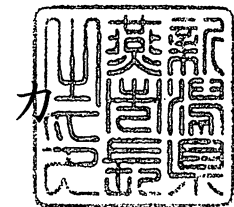


新潟県教育委員会教育長  
池田 幸博 様

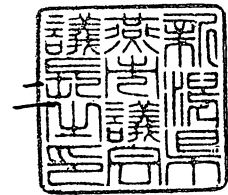
燕市内の県立高校の特色化に関する提案書

平成 29 年 3 月 29 日

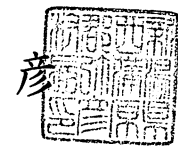
燕 市 長 鈴 木



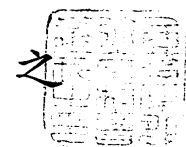
燕市議会議長 中山 眞



弥彦村長 小林 豊



弥彦村議会議長 武石 雅



## はじめに

県教育委員会は、平成 28 年 3 月に『県立高校の将来構想』を策定し、適正な学校規模を 1 学年あたり 4～8 学級とする一方、「他にはない特色ある教育活動を展開するうえで、あえて小規模が妥当とする学校もあり得る」としています。

また、『将来構想』の基本的な考え方として、「地元関係者からの意見にも配慮しながら 3 年毎の県立高校等再編整備計画を策定する」としています。

吉田高等学校の募集学級数は、平成 30 年度に 3 学級とする計画が公表され、また分水高等学校は、既に平成 28 年度から 2 学級募集となっており、このままでは燕市内にある県立高校の存続が危ぶまれます。

しかしながら、両高校は燕市と弥彦村の中学校卒業生にとって大切な進路先であるとともに、将来の地域社会や地場産業等を担う人材の育成に必要不可欠な存在であります。

このため燕市では、両高校を小規模であっても特色ある学校として今後も存続させるため、総合教育会議や地元産業界、各高校の同窓会・後援会、燕・弥彦 PTA 連絡協議会等からなる懇談会を開催し、両高校の特色化のあり方を幅広い観点から検討するとともに、燕・弥彦地域定住自立圏共生ビジョンを進める弥彦村とも協議させていただき、本提案書をまとめました。

つきましては、今後の県立高校等再編整備計画の策定にあたっては、本提案書における“意見”を十分に汲み取っていただき、その実現について特段のご配慮をいただけますようお願い申し上げます。

# 第1章 総論

## 1 特色化に向けた検討の経過

### (1) 燕市総合教育会議

以下のテーマで市長と教育委員が2回にわたり意見交換を行った。

- ① 学びの連続性を重視した未来の燕市を担う人材の育成方法
- ② 地元高校の特色化のあり方

### (2) 高校特色化懇談会

地元産業界や各高校の同窓会・後援会、燕・弥彦 PTA 連絡協議会の役員で構成する懇談会を3回開催し、地元高校の特色化について検討した。

- ① 両高校の現状と課題
- ② 教育課程における特色化の内容
- ③ 部活動・課外活動における特色化の内容

### (3) 弥彦村との協議

燕市での検討内容を弥彦村と協議し、県への提案書としてまとめた。

## 2 燕市内にある県立高校の現状

### (1) 分水高等学校

- ① 創立年 昭和 57 年 10 月 15 日（開校：昭和 58 年 4 月 1 日）
- ② 学級数・生徒数（平成 28 年 10 月 1 日現在）  
1 学年：2 学級 ※H28 年度から 2 学級募集  
全校生徒 287 名（男 147 名、女 140 名）
- ③ 教育課程 全日制 普通科

### (2) 吉田高等学校

- ① 創立年 昭和 37 年 4 月 1 日
- ② 学級数・生徒数（平成 28 年 5 月 1 日現在）  
1 学年：4 学級 ※H30 年度から 3 学級募集  
全校生徒 507 名（男 220 名、女 287 名）
- ③ 教育課程 全日制 普通科

### 3 特色化に関する基本的な方向性

これからの時代を生き抜く能力を養う特色ある教育課程や部活動・課外活動を地域との協働で推進し、1学年2～3学級の小規模であっても、一定数の修学ニーズを満たす学校を目指す。

#### (1) 教育課程の特色化による魅力づくり

- ① 多くの中学生及びその保護者が高校入学後に将来の進路を選択できることを望んでいる実態を考慮し、両校とも普通科を基本としつつ、学年進行に応じ複数のコースなどを選択できる教育課程とする。
- ② 選択コースでは、他の県立高校では学ぶことのできない特色あるコースを導入する。
- ③ 設定するコースは、これからの社会で生き抜くために必要な知識や技能の基礎を養い、進学及び就職にも役立つ内容のものとする。

#### (2) 部活動・課外活動の特色化による魅力づくり

- ① 既に特色化しつつある部活動の充実を図るとともに、遠隔地からも生徒を受け入れることができるための環境整備等を行う。
- ② 特色ある地域イベントの企画・運営参加など、教育課程を補完するような校内活動や課外活動の活発化を図る。

#### (3) 地域との連携による魅力づくりと情報発信

- ① 地域の自治体や産業界等が特別授業や職場体験の受け入れを行うなど、他の高校では学ぶことのできない特色ある教育課程を推進する。
- ② 羽ばたけつばくろ応援事業やキャプテンミーティング等地元自治体の事業の活用・拡充等により、部活動・課外活動の活発化を図る。
- ③ 地元自治体の支援・協力によるパンフ作成やPR活動を展開するなど、中学生や保護者に学校の魅力や特色を積極的に情報発信する。

---

※1 「羽ばたけつばくろ応援事業」は、燕市の将来を担う人材の育成を目的に、若者が主体的に行う社会参画活動等を支援する事業です。平成28年度においては、吉田高校の茶道部が行ったモンゴル国パラアーチェリー選手団との国際交流事業や、分水高校の2年生が台湾の高校と行った国際理解・異文化交流事業が採択されました。

※2 「キャプテンミーティング」は、一流アスリートを講師に招へいし、部活動において中心的な役割を担う子どもたちを対象に、リーダーとしての資質や能力を養成する事業です。現在は、中学生を対象に実施していますが、これを高校生版に拡充することが考えられます。

## 第Ⅱ章 分水高等学校の特色化について

### 1 特色化の内容

新科目「公共」を実践的に学ぶモデル高校として位置づけ、地域資源や地域の人材を活用した授業を積極的に展開するとともに、授業を補完する課外活動の活発化と特色ある部活動の強化を図る。

#### (1) 教育課程の特色化による魅力づくり

- ① 新科目「公共」の履修をベースに地域創生人材を育成する学校として位置づけ、地域と連携した授業を実施することにより、課題発見能力や問題解決能力の育成、合意形成のプロセスの習得を目指す。

(例)

- ・自治体職員によるワークショップ型授業
- ・地域資源を活用し地域と連携した授業 など

- ② 県内唯一の公務員への進路を想定した地方行政コースを新設し、地方創生を推進する人材の育成を図る。

(例)

- ・自治体へのインターンシップ
- ・自治体職員による行政や地方自治に関する出前講座 など

- ③ 地方行政コース以外にも新科目「公共」での学びを活かし、生徒をより目的意識をもった進路選択へ導く。

(例)

- ・大河津分水を題材とした「公共」の学びは、大学等で土木や建築を学びたいという進路志望につながることを期待
- ・少子高齢化社会の課題を題材とした「公共」の学びは、保育士や看護師、介護福祉士への資格取得を目指す生徒の増加を期待
- ・地域産業やインバウンド観光を題材とした「公共」の学びは、経済経営系の進路に進み、グローバルに活躍する人材の輩出に貢献など

## (2) 部活動・課外活動の特色化による魅力づくり

- ① 分水高校タウンマネジメント部（仮称）を創部し、学校・地域・行政が連携して地域課題解決の調査研究を進めるなど、新科目「公共」の学びを補強する課外活動の活発化を図る。

(例)

- ・燕市及び弥彦村のイベントの企画運営への参加協力
- ・ビッグデータ (RESAS) の活用による地方創生への施策提案 など

- ② 全国レベルにあるカヌー部に魅力を感じ、多くの生徒が集まる部へ押し上げる環境整備を地域と協力して行うなど、部活動の特色化を図る。

(例)

- ・遠隔地から生徒を受け入れるための環境整備等  
（同窓会や地域住民によるホームステイの受け入れなど）
- ・練習環境の整備や外部指導者による講習会の実施 など

## 2 その他、特色化を進めるにあたり検討すべき事項

立地環境を考慮し、交通不便地域や部活動に対応した交通手段や生活支援のあり方について検討する。

- ① 部活動終了時など既存公共交通の運行がない場合の交通手段のあり方

(例)

- ・通学シャトルバスの運行 など

- ② 遠隔地から入学を希望する生徒の生活支援のあり方

(例)

- ・地域住民や同窓会などの協力によるホストファミリーの募集 など

## 第Ⅲ章 吉田高等学校の特色化について

### 1 特色化の内容

他校との差別化を図るために、既存のコース（文系、理系、情報ビジネス、健康体育、文化教養）を踏まえつつ、地域特性や社会ニーズを活かした福祉、外国語、観光ビジネスの科目を取り入れたコースに再編するとともに、地域企業や大学との連携による外部講師陣の充実により、魅力ある授業を展開し、多様な生徒の進路希望に対応する。

#### (1) 教育課程の特色化による魅力づくり

##### ① 地域特性や社会ニーズを踏まえた新たなコース・科目の導入と地域企業や大学等の外部講師を活用した授業の実施

ア 高齢化社会に対応する介護職の人材育成を目指した福祉科目

(例)

- ・地元の介護、福祉事業所へのインターンシップ など

イ グローバル展開を図る地域産業の担い手を育成する外国語科目

(例)

- ・地元企業によるビジネス外国語（英語、中国語等）講座 など

ウ 外国人観光客の増加を見据えた観光ビジネス科目

(例)

- ・行政や観光協会でのワークショップ型授業
- ・ホテル、旅館でのインターンシップ など

##### ② 既存コースについても、時代の変化に対応した最新の知識の習得や地域特性を生かした特色ある授業の実施

(例)

- ・コンピュータグラフィックス
- ・アイデアソン・ハッカソンによる発想力の養成
- ・クラフトマンによる彫金や工芸の特別授業 など

## (2) 部活動・課外活動の特色化による魅力づくり

- ① 実績のあるアーチェリー部や自転車競技部に加え、今後レベルアップが期待される空手道部など特色ある部活動の強化を図る。

(例)

- ・遠隔地から生徒を受け入れるための環境整備
- ・練習環境の整備や外部指導者による講習会の実施 など

- ② 地元自治体や各種団体等が進める事業に積極的に参画するなど課外活動を活発化し、授業だけでは得ることのできない企画力、コミュニケーション能力などの養成を図る。

(例)

- ・燕市及び弥彦村のイベント等への積極的な参加
- ・東京オリパラホストタウン構想推進への参加 など  
(モンゴル国との交流におけるホストスクール化)

## 2 その他、特色化を進めるにあたり検討すべき事項

周辺環境の整備が進む中、通学に便利で開放的なイメージを発信するため、通学路などの環境整備を検討する。

(例)

- ・新設された市道側からの出入口の開設や緑化推進 など



## 結びに

本提案はあまり時間的余裕がない中でとりまとめたものであり、必ずしも十分なものではないかもしれませんが、地元の高校を存続させ、地域及び新潟県の将来を担う有為な人材を育成していただきたいという関係者の“想い”が込められたものであります。

両高校の特色化のキーワードは、「これからの時代を生き抜く力の育成」と「地域との連携」です。

燕市及び弥彦村においては、本提案にある特別授業の実施や部活動・課外活動の推進などに当たり、行政、産業界、高校の同窓会・後援会などが一致協力し、できる限りのバックアップをしていきたいと考えております。

県及び県教育委員会におかれましては、こうした地元の“熱意”を真剣に受け止めていただき、「県と地域が連携して進める特色ある県立高校」のモデルケースのひとつとして取り組まれることを希望するとともに、その具体化に向けた協議を速やかに開始していただきますようお願い申し上げます。